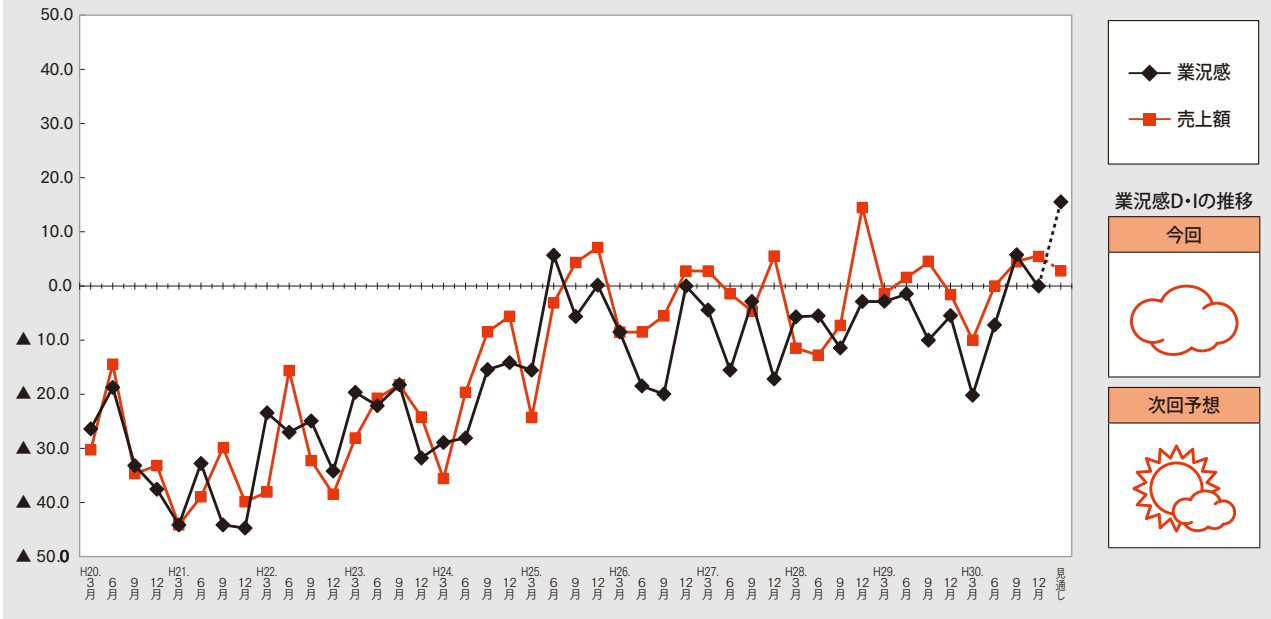


小売業

Retail trade

仕入価格が上昇

D・I 推移グラフ(小売業)



1 今期 (平成30年10-12月期)

業況感は0.0(前期5.8)となり、前期15期ぶりにプラスとなっていたが、やや悪化した。売上が5.7(前期4.3)、収益が12.9(前期1.4)と改善したが、仕入価格の上昇、資金繰りの悪化が見られ、業況感の低下と考えられる。仕入価格は7.2ポイント上昇、資金繰りは2.9ポイントの悪化であった。前期改善の兆しが見えた人手の不足感も再び12.9ポイント悪化した。特に10月、11月に気温が下がらず、個人消費がやや伸び悩んでいるとの声も聞かれた。

2 来期の予想 (平成31年1-3月期)

来期の業況感は15.7と大きく改善する見込みとなっている。売上額が2.8ポイント、収益が2.9ポイントそれぞれわずかながら悪化する見込みであるものの、仕入価格が8.6ポイント改善、在庫も2.9ポイント改善、資金繰り2.9ポイント改善の見込みであり、全体の業況感が改善される見込みである。個人消費の持ち直しに期待したい。

DI値の推移 (過去1年と3カ月後の予想)

	H29. 12月期	H30. 3月期	H30. 6月期	H30. 9月期	H30. 12月期	来期 見込み
業況感	▲ 5.7	▲ 20.3	▲ 7.1	5.8	0.0	15.7
売上額	▲ 1.4	▲ 10.0	0.0	4.3	5.7	2.9
収益	▲ 1.4	▲ 15.7	0.0	1.4	12.9	10.0
販売価格	5.7	14.3	5.7	12.9	7.1	8.6
仕入価格	▲ 18.6	▲ 25.7	▲ 18.6	▲ 17.1	▲ 24.3	▲ 15.7
在庫	▲ 8.6	▲ 11.4	▲ 1.4	▲ 7.1	▲ 5.7	▲ 2.9
資金繰り	▲ 10.1	▲ 20.0	▲ 18.6	▲ 11.4	▲ 14.3	▲ 11.4
人手	4.3	13.0	26.1	5.7	18.6	25.7
設備状況	1.4	5.7	15.7	8.6	7.1	10.1

業況調査メモ

地域の電器店、水回り工事店、燃料店、リフォーム工事店、電気工事店、その他の異なる業種・業態店が連携して、地域の生活者の困りごとを解決する多様な業種業態の地域ネットワークの全国展開を進めている企業がある。全国家電量販業界トップのヤマダ電機と名古屋の地域電器店グループの豊栄家電の合併会社として2005年に設立され、08年にヤマダ電機が100%子会社化したコスモス・ベリーズ。地域の電器店にとって、これまで通りの営業を続けながら、商品仕入れはヤマダ電機の持つスケールメリットが生かされるとあって、鹿児島県内でも加盟店を増やしつつある。